

横浜市小学校社会科研究会

4 学年部会

研修会記録

第1号

令和4年 7月6日

横浜市小学校教育研究会

会長 徳江 武司

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 金井 伸一

【提案日時】

6月15日(水)

提案 板山 涼 先生(中尾小)

【会場】

横浜市立平沼小学校

司会 岡崎 巨樹 先生(菊名小)

記録 八木 浩司 先生(南吉田小)

○単元名

ごみの行方を追って

～“これから”を考えた「自分たちにできること」～

○提案者より

＜視点①＞主体的な学びを実現するための、予想と見通しを生かした単元づくり

- ・ 疑問や予想をもとにして学級全体でつくっていく“学ぶ内容”の計画だけでなく、問題の解決に有効な資料や思考方法などの“学び方”の計画を、子ども一人ひとりが立てていく場面を設定した。

→見通しをもって学びに向かう姿と自らの学び方の自覚が見られた。

＜視点②＞社会的事象の意味等に迫るために、協働的な学びを大切にした授業づくり

→本気の学習問題を追及していく中で、「教師の指導性」について、

- ・ 3Rの視点から考えるための板書構造
- ・ 子どもの思考の流れを大切にされた資料提示
- ・ 選択・判断につなげるための発問

上記の3点に焦点化して、提案した。

資料提示に関しては、早い段階で提示すべきだった。

→資料提示を早い段階で行うことで、子どもたちのより具体的な選択・判断が見えたのではないかな。

○協議内容

<視点①>

- ・単元づくりにおいて子どもが自ら学び方を分かっているから、主体的に取り組んでいた。
- ・学習問題（内容）とめあて（学び方）を分け、毎時間の板書に残している。
- ・学習計画（内容）の見通しがもてていたため、学び方でも効果的だった。
- ・授業終了後のふり返りを提出する際などに、児童と個別にコミュニケーションをとることで、それぞれの学びが充実していた。

<視点②>

- ・授業づくりで、誰から話をすればよいかを明確にしているからよい。（意図的指名）
- ・板書が整理されていて、話し合いがスムーズに進んだ。
→選択・判断の子どもたちのヒントが板書に書かれていた。

<本時の資料について>

資料を出すことで考えが整ったり、焦点化されたりする。一方で、資料提示したからこそ出なくなる考えもある。資料提示の難しさを感じる。

<ふり返りの時間>

- ・時間を確保するために、どのタイミングで介入するか。教師の指導性が求められる。

<本気の学習問題の追究>

- ・今回の学習問題が、子どもにとって本当に切実な問題になるのかは再考が必要。
→子どもは本気で解決できるものになっているか。
例えば、自分の取組を通して、ゴミを〇キロ減らすことができるなど、具体的に考えてもよいのではないか。今までの学習を生かした発言が出るとよい。
→（横浜市が力を入れている）食品ロスなどに絞るなど焦点化するのもよい。

※選択・判断を話し合うとき、一般論化してしまうことが多い。

<今後に向けて>

- ・どのように切実感をもって取り組むとよいかを考える。
→これから検討していく。

<講師の先生より>

○洋光台第一小学校 中村 智 校長先生

<視点①>

板書が秀逸で、毎時間の思考の流れが分かりやすい。学習計画（内容）・学び方がしっかりできている。主体的な学びを実現する手立てとなっている。本時に関しても、意図をもってつくられた板書になっていた。

<視点②>

協働的な学びを実現するためにもやはり板書は重要。本気の学習問題の「30年」をどう捉えていたのか。ここを大切にすべきだった。働く人・行政の声があるともっと切実感が出る。一方、全体を通して抽出児童の成長を大きく感じた実践だったように思う。

○西富岡小学校 黒田 由希子 校長先生

視点に沿って、よくまとめられている。コロナ禍においても主体的で対話的で深い学びが実現できている。令和型の個別最適な学びと協働的な学びを両立させている。個と全体が有機的に機能していくことをさらに追究していくとよい。

教師の指導性は大切だが、子どもの思考（ストーリー）との違いをしっかりと理解しておく必要がある。社会科として、（ゴミ＝道徳・国語ではなく）行政・企業・自治体の取組が見える授業を展開していくことが大切。その中での選択・判断が出てくるとよい。社会の仕組みが見えてくる世界へ連れて行くことが大切。

文責 山口曉風（小田小学校）